

ポラス

沿線ブランドが好調

東武東上線 素材感・個性を強調

ポラスグループの中央住宅は、戸建分譲「フレイベストみずほ台」（埼玉県富士見市、全5棟）の販売を開始した。グループでは東武東上沿線での開発強化に向け、16年3月に沿線専門のブランド「フレイベスト」シリーズを立ち上げた。6月下旬の販売開始から既に2棟が売約済みとなるなど、順調な滑り出しを見せている。

統一感ある街並みを保つ一方、建て売りながら1棟ごとにフォルムや外壁、間取りが異なる、個性ある住宅が「フレイベスト」の特徴だ。自然素材を使った本物志向など、沿線の志向を色濃く反映しており、無垢の建材を床や壁のほか、コーナーなど部分的にあしらっている。

みずほ台では、各棟で異なるコンセプトのもと、カフェキッチン、スキップフロア、SOHO

スペース、スタジオキッチン、吹き抜けリビングの5通りの間取りを用意。木材の木目や加工・塗装などが異なる壁材を組み合わせ、個性を強調した。

外構部分は、レンガや石積み、天然石、緑化舗装材などを採用したほか、シンボルツリーを植栽するなど、環境面にも注力する。

東武東上線みずほ台駅徒歩11分に位置する100～121平方メートルの敷地

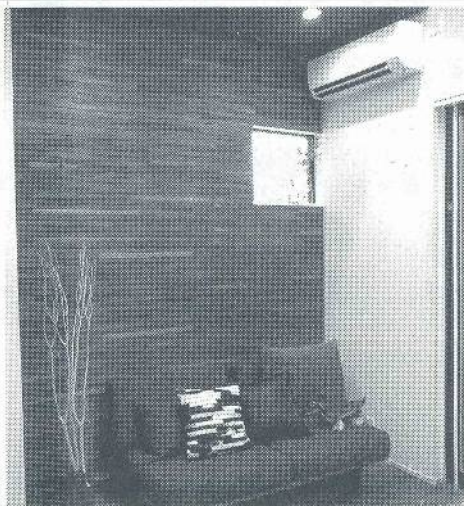
に93～103平方メートルの2LDK～4LDK。販売

価格は3780万～4680万円。竣工は16年12月を予定している。

同ブランドは、4月に初弾として富士見市鶴瀬に11棟を開発している。

今後は年間100棟の販売を目指し、小規模の

壁の一部に無垢の木材を採用するなど、素材感を生かす仕様にした



用地から街区形成が可能な規模の用地まで幅広く

仕入れを強化している。